

CREPセミナー(東京大学社会科学研究所):2006年1月24日

# 第1回東アジア首脳会議(EAS)の 意義と展望

---

: ASEAN域内経済協力の視点から

清水一史

(九州大学)

shimizu@en.kyushu-u.ac.jp

# 構成

---

## 課題

- 2005年12月第1回EAS
- ASEAN域内経済協力と東アジア地域協力
- 第1回EASの成果と意義
- EASとASEANの今後を巡る論点

# 課題

---

- 2005年12月第1回EAS会議の意義と展望をどう考えるか？
- ASEAN域内経済協力の視点からはどう考えられるか？

# 2005年12月第1回EAS

---

- 一連のASEAN会議に連続して第1回EAS
- 第11回ASEAN首脳会議
  - ASEAN憲章の制定に合意:「ASEAN憲章の制定に関するクアラルンプール宣言」
  - ミャンマーに民主化を促すための特使を派遣 する
- 第9回ASEANプラス3首脳会議
  - 「ASEANプラス3に関するクアラルンプール宣言」
  - ASEANプラス3が、引き続き東アジア共同体形成の「主要な手段」である
  - そこではASEANが推進力となる
  - ASEAN統合に対するプラス3各国の継続的支持を確認(特に開発格差の縮小の面)
  - 2007年に、東アジア共同体形成の将来の方向性を示す「第2共同声明」を作成する

# 第1回東アジア首脳会議(EAS)

---

- ASEAN、日本、中国、韓国、インド、オーストラリア、ニュージーランドが参加（冒頭にロシアがゲスト参加）
- 「鳥インフルエンザに関するEAS宣言」
- 「EASに関するクアラルンプール宣言」

# EASに関するクアラルンプール宣言

---

- EASがこの地域における共同体形成において「重要な役割」を果たし得る
- ASEAN共同体を形成する努力を支持する
- 東アジアにおける平和、安定および経済的繁栄のための対話を行うフォーラムとしてEASを設置する
- 政治・安全保障、経済、社会・文化の幅広い領域に焦点を当てる
- 開放的、包含的、透明かつ外部志向のフォーラムである
- EASはASEANが運転者である
  - EASへの参加は、ASEANが設定した基準に基づく
  - EASは定期的に行う(毎年開催する:議長声明)
  - ASEANが主催する
  - ASEANが議長を勤める
  - ASEAN年次首脳会議の際に開催する

# 第1回EASの意義

---

- EASという枠組み作りには成功
  - インド、オーストラリア、ニュージーランドを含めて開催
  - 次年度以降も開催
  - 鳥インフルエンザでは「宣言」
- ASEANはイニシアチブを確保  
ただし
- EASの詳細は未定
- 東アジア共同体形成はASEANプラス3が「主要な手段」:EASは「重要な役割」(補完的役割)
- 担うべき東アジア共同体像は未定

# ASEAN域内経済協力の展開(1)

---

- 1976年第1回首脳会議と「ASEAN協和宣言」から開始: 集团的輸入代替重化学工業化戦略
- プラザ合意以後の構造変化と1987年第3回首脳会議と「マニラ宣言」で転換: 集团的外資依存輸出指向工業化戦略へ
- 1990年代の構造変化とASEANの対応
  - AFTA、AICOと展開とインドシナへの加盟国拡大
- アジア経済危機とASEANの対応
  - 第2回非公式首脳会議と「ASEAN Vision 2020」
  - 第6回首脳会議と「大胆な措置に関する声明」



# ASEAN域内経済協力の展開(2)

---

- アジア経済危機後の構造変化と域内経済協力の遠心力の拡大
  - 加盟国の拡大と経済格差
  - 各国の域内経済協力に対するスタンスの違い: 各国の独自のFTAの追求
  - より広い協力枠組みの構築
  - 多国籍企業のより広域な国際分業の展開
- ASEANの対応: 域内経済協力の深化と経済格差の是正
  - 2003年第9回首脳会議と「ASEAN協和宣言Ⅱ」とAEC
    - AEC(ASEAN経済共同体): 2020年までに財・サービス・投資・熟練労働力の自由移動に特徴付けられる単一市場・生産基地を構築する
    - ASEAN共同体の形成
  - 2004年第10回首脳会議とVAP(ビエンチャン行動計画)
- 「ASEAN協和宣言Ⅱ」を更なる転換点に、協力・統合の本格的深化へ向かうか？

# ASEAN域内経済協力の重要な特徴

---

- 域内経済協力からの域外協力の要請
- 外資の獲得、輸出市場の確保、外資による域内国際分業の支援の要因：  
1987年からの集団的外資依存輸出指向工業化の側面
  - BBCスキーム、AICOスキーム、AFTA、AIA
- 域内経済協力を巡る緊張を域外からの支援によって解決
  - 1977年開始のAIPの時から、域内協力の緊張を域外からの援助で解決
- ASEANにとっては、発展のための資本の確保・市場の確保が常に不可欠
- 自らの協力・統合のための域外からの資金確保も肝要(域内格差の是正)
- それゆえ、東アジア地域協力を含めた広域制度整備やFTAの整備は不可避
  - それゆえイニシアチブの確保と自らの協力・統合の深化が求められる

# ASEANと東アジア地域協力(1)

---

- 域内経済協力と同時に域外経済協力が展開:域外協りに大きな効果
- ASEANは、東アジア地域協力においてきわめて重要な位置
- 東アジアの地域協力においてはASEANが交渉の場を提供
  - ASEAN拡大外相会議、ASEANプラス3、日中韓、ARF
- ASEAN域内経済協力の延長に一部の協力が東アジア大に拡大
  - ASEANスワップ協定が東アジア大に拡大
- ASEANが東アジアにおけるFTA構築の最重要な軸:ASEANを軸としたFTA網
  - ASEAN中国
  - ASEAN日本
  - ASEAN韓国
  - ASEANインド

# ASEANと東アジア地域協力(2)

---

- ASEANルール・システムの東アジアへの拡大
  - ASEANスワップ協定の東アジアへの拡大
  - AFTA原則を各FTAに展開:AFTAの付加価値原則を中国、日本、韓国とのFTAへ敷衍
  - EASの参加基準もASEAN基準
- ASEANの協力・統合の深化と方向が、東アジア地域協力の鍵を握る:東アジア地域協力を方向付けるのではないか

# 第1回EASの意義：ASEANから

---

- ASEANにとっては従来の路線の延長に着実な成果
- ASEAN首脳会議では憲章制定に合意
- EASにおいてイニシアチブ(運転席)を確保
  - 最初にASEAN開催
  - 今後もASEAN会議に続けてASEANで開催
  - 参加基準はASEANの基準に基づく
  - ASEANの地位の確認(宣言・声明)
- ASEANプラス3等においてもイニシアチブを確保
  - ASEANプラス3が東アジア共同体形成の「主要な手段」であるが、そこではASEANが推進力となる
  - ASEAN統合に対するプラス3各国の支持(特に開発格差の縮小の面)
- 更にASEAN統合への協力資金獲得
  - 日本や中国、オーストラリアからの資金援助
- ASEANを軸とするFTAの整備
  - ASEAN韓国FTA

# EASとASEANの今後を巡る論点(1)

---

- EASは、東アジア地域協力は、どのような役割を担って行けるか？
  - いかなる国際公共財を提供するのか？世界経済管理に貢献するか？
- EASのメンバーシップの拡大はどのような意味を持つか？
  - インドの加盟はどのような意味を持つか？
  - メンバーシップは拡大を続けるのか？
- EASを含めて協力枠組みにアメリカを入れずに進行するか？
- それぞれの協力枠組みは、それぞれの機能を得て重層的に展開するのか？
  - ASEAN・ASEANプラス3・EAS・ARF・APEC
- 東アジア共同体は、果たしてどのようなメンバーシップで、何を目指すか？

# EASとASEANの今後を巡る論点(2)

---

- ASEANは、EASの、東アジア地域協力のイニシアチブを維持して行けるか？
  - 域外国との交渉力を維持して行けるか？
  - ASEANルール・システムを展開させて行けるか？
  - 自身の協力・統合を深化させていけるか？
  - 内政不干涉原則から踏み出すか？
- ASEANにとっては、広域枠組みに埋没しないためにも、東アジア地域協力においてイニシアチブを維持し続けなければならない。
- 自らの協力・統合を深化させなければならない。
- 他方、ASEANの協力・統合の方向が、東アジア地域協力の方向を規定するのではないか